



地味チョウシリーズ④

ヒメキマダラヒカゲ *Zophoessa callipteris*





この写真は1986年発行の「道新本」に載せた兄の写真です。1976年7月27日札幌市滝野のクレジットがあります。翅の裏の色彩や白い縁毛が美しく、ヒメキマもいいじゃないと思わせる大好きな写真です。

今回はジャノメの仲間でもほとんど見向きもされない？ヒメキマ君に焦点を当ててみます。

卵～若齢

クマイザサの葉裏の並んだ卵(左19個・右12個)。表面は平滑に見えるが、実は極小浅い凹みが全面を覆っていて、超美しいことがフィールド版の芝田さんの卵のアップ(深度合成)写真でわかった。ヒメウラナミもすごくきれい。詳しくはフィールド版で。
(2018・8・8 富良野市)

下は8個の卵塊。右の(18個)はすでにふ化が始まっていた。(同上)



摂食を始めた1齢幼虫 この写真は10月21日のもの。遅く孵化するものもいるようだ。(2018・10・21 日高町)

若齢の食い始めと食痕

葉脈を残して葉を食べる(左下写真)ので食痕は独特のすだれ状になる(右下写真)。(2019・8・4 積丹町 写真 辻規男)



葉に残された「すだれ」があると、あっ、ヒメキマだとすぐわかります。
左の写真は2か所に「すだれ」があります。
(2005・9・15 富良野市)

右の写真は兄が「完本」にのせたヒメキマの糞の写真。「ササの葉にはガラスと同じ二酸化ケイ素の結晶が含まれて食べやすくはないもの。中身が抜けて透明になった葉片は幼虫が齧り取った形のまま残っていた。」とあります。また「幼虫の口器は脱皮直後と次の脱皮前とを比べるとはっきりとすり減っています。」とのこと。兄らしいこだわりの観察です。1齢幼虫は葉脈がさすがに硬すぎて食べ残すのですね。



幼虫は何齢で越冬に入るのか 標茶での観察



2齢幼虫の食べ始め。赤円の部分に1齢の脱皮殻がある。(2007・9・30 標茶町)



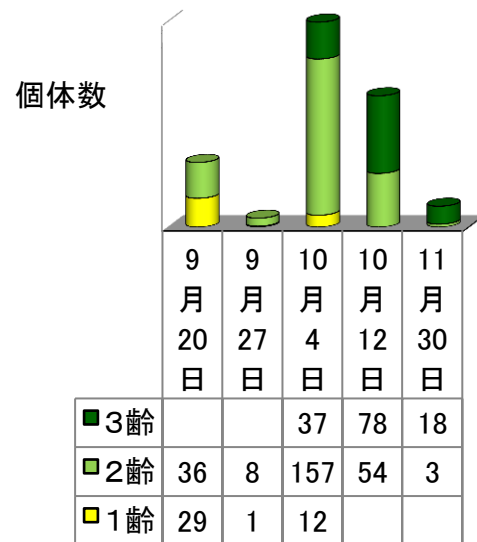
越冬に入る3齢幼虫 (2008・11・30 標茶町)

標茶高校の敷地内にある軍馬山(写真左上)でヒメキマがたくさん飛んでいました。

そこで今まで調べられていなかった「幼虫は何齢で越冬するのか」について観察を始めました。2008年9月から11月末まで5回に渡り、「すだれ」に注意して幼虫を捜し、齢数の変化をカウントしてみました。

(右図)

順調に生育すれば3齢の集団で越冬に入ることがわかりました。



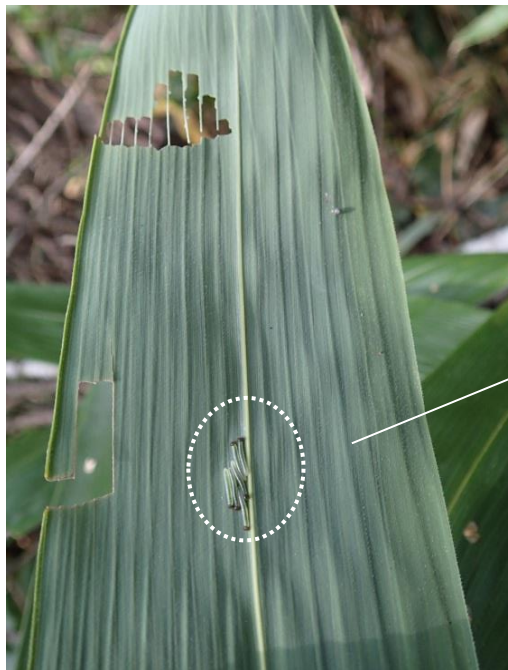
越冬に入る幼虫の齢数の変化

越冬前の若齢 旭川・標茶

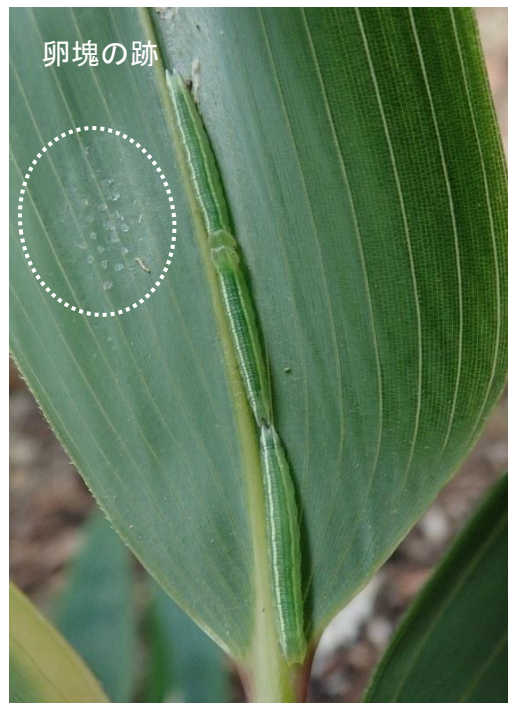
その後、ササ食い幼虫の観察は病み付きになってきました。9月になると蝶の姿はほとんど見られなくなるので、富良野～旭川近郊のマイフィールドで、コチャ、オオチャ、サトキマ、ヤマキマの幼虫探しを続けています。上の写真は旭川の神楽岡公園です。ここではコチャの越冬巣をたくさん発見できましたがその傍らヒメキマも見つかりました。



3齢になると葉脈も食べてしまうので食痕は「すだれ」ではなくなります。幼虫たちはなぜか体や頭をくっつけてあっています。
(2018・10・9 神楽岡)



葉の中央部に座をつくり集団を作っている。
(2018・10・23 富良野市)



卵塊の跡



越冬前～越冬明け

秋も深まり落葉が積もり始めるころササ食い幼虫たちは越冬の準備に入りますが、ヒメキマ君は葉の裏の体を寄せ合っています。やがてササの葉は雪の下になってしまいます。下の写真はそんな、越冬に入る3齢幼虫です。ササの葉の基部の太い中脈に体を寄せ合っています。左の葉は若齢時に造ったすだれ食痕です。



(2013・10・13 富良野市鳥沼公園)

雪が解けると倒れていたササの葉が起き上がってきます。ササの葉は雪につぶされ、時に折れ曲がっていますが、ヒメキマ幼虫はどうなっているのでしょうか。越冬明けの幼虫はなかなか見つかりません。2～3齢の集団で越冬に入ったのですが、無事に見つかるのはいつも単独です。葉に刺激を与えるとポロポロこぼれ脱落するくらいですから越冬中に概ねバラけてしまうのでしょう。

新葉が出るまでは古い越冬葉を食べています。



雪解け直後、立ち上がったササの葉の裏にいた3齢幼虫。新しい小さな食痕もある。(2018・4・19 富良野市)



ササの葉の裏にいた中齢幼虫 (2018・5・9 富良野市)

越冬後の幼虫たち

越冬後幼虫たちはしばらく雪の下になっていた古い葉を食べます。3～4齢になると食痕は葉縁から三角から台形がたに切り込んだ形になってきます。



越冬葉にできた食痕
(2018・5・9 富良野市)



葉の縁に静止する4齢幼虫
(2018・6・16 鹿追町)

新葉が出始めると、そっちを食べ始めますが、この頃はなかなか見つかりません。この頃見つかる幼虫はクロヒカゲによく似ているので注意が必要です。二つ並べておきます。頭の角の違いに注意します。

左:クロヒカゲ、右:ヒメキマ



新葉の裏にいた4齢と亜終齢幼虫
(2014・6・30 富良野市)



新葉にいた終齢幼虫
(2015・7・9 富良野市)



成虫生態いろいろ

ヒメキマの成虫は、同じような生活史を持つクロヒカゲに比べて1か月以上遅れて7月下旬から発生します。林道にヨツバヒヨドリの花が目立つようになるお盆の頃がピークのようなのですが、すぐに汚損する個体が多いです。生息環境はクロヒカゲより森林性で、山登りの途中の山地帯～亜高山帯でよく見かけます。オスは地面で吸水しますが樹液にくるのは稀。



ヒヨドリバナで吸蜜する♂ (2015・8・7 富良野市)



糖蜜トラップに来た♂
(2021・8・6 同上)



葉に止まる♀ (2021・8・4 同上)



羽化したての♂左・1週間後の♂ (2015・7・27／8・5 同左)



クモ(人面蜘蛛?)に捕えられた♂ (2019・7・31 富良野市)

成虫生態 占有行動・産卵

ヒメキマのみが少し開けた空間に向けて止まっているのをよく見かけます。時々翅を半開きから全開にしています。なわばりを見張っているようです。近くを通りすぎる蝶を追いかけていきます。おそらく早を待っているのでしょう。産卵行動はなかなか見せてくれません。



占有行動(2015・8・11遠軽町)



占有行動(2018・7・24富良野市)

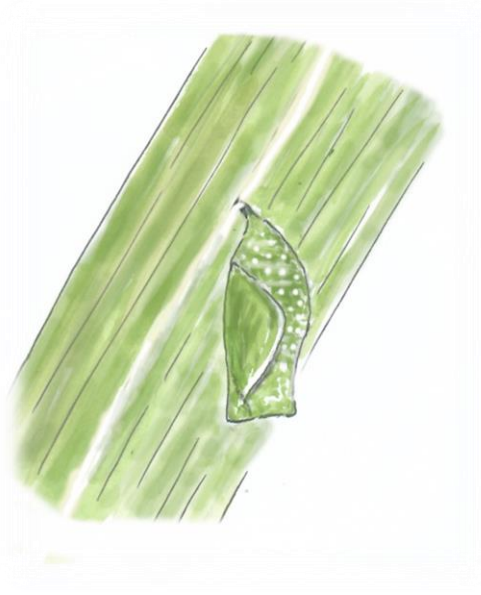


早朝に翅を全開にして占有行動を示す(2019・7・26 七飯町 辻写真)



葉の裏に産卵(2018・8・18上富良野町)

山の中の、その名の通り、少し日陰が好きなヒメキマ君
です。幼虫たちを中心に紹介しましたが、配偶行動～産卵
など成虫の行動はあまり記録できていません。やはり地味
なせいでスルーしてしまっているのかもしれませんが。
ごめんなさいヒメキマ君。



THE END